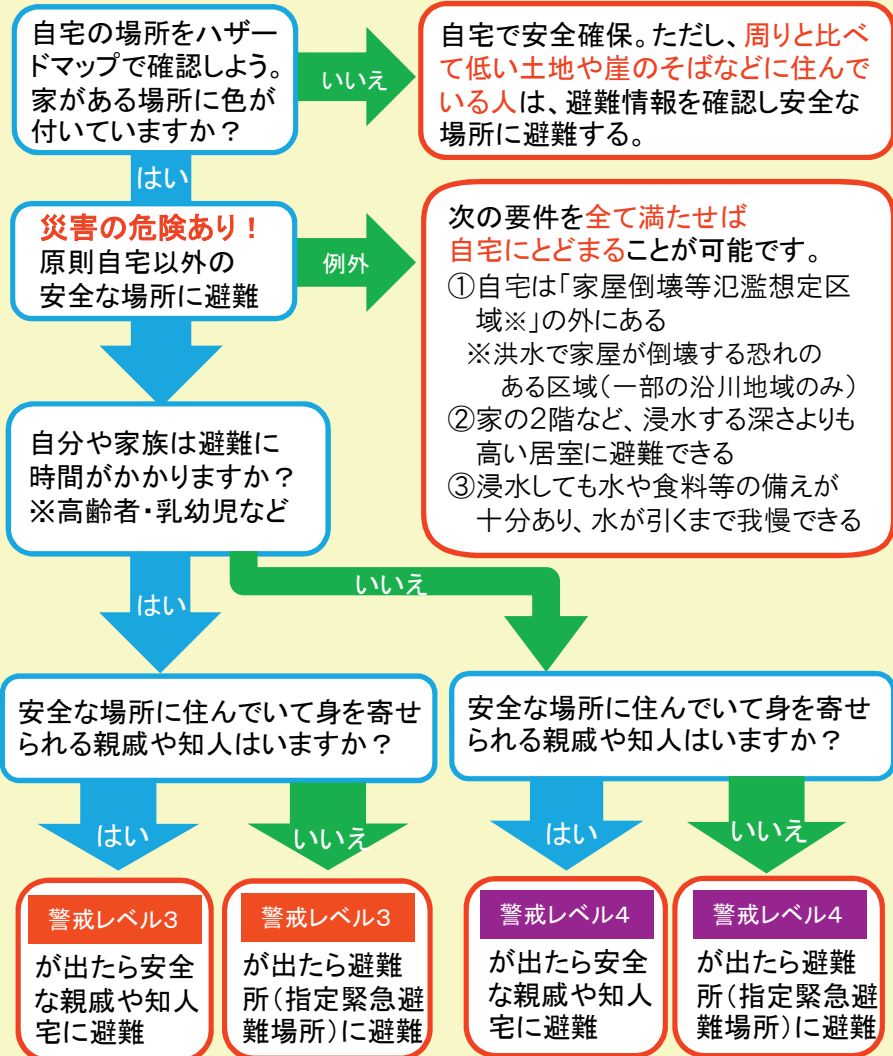


考えてみよう『命を守る避難行動』

豪雨などの災害時に「迷わず避難」できるよう家族や知人と話し合い、日頃から備えましょう。

避難行動判定フロー（洪水・土砂災害）



総合ハザードマップ

中学校区単位、災害の種別ごとに想定される浸水深や避難所などの情報が掲載されています。日頃から確認しましょう。



スマートフォンはこちらから▶



警戒レベルと避難行動

発表される警戒レベルを確認して、早めに避難しましょう。警戒レベル3～5の避難情報は市が発令します。

● 警戒レベル3以上で**早めの避難を**

警戒レベル5 災害発生情報	命を守るため最善の行動を既に災害が発生
警戒レベル4 避難勧告または避難指示（緊急）	危険な場所から 全員避難
警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始	危険な場所から 高齢者などは避難
警戒レベル2 洪水注意報、大雨注意報など	ハザードマップなどで避難行動を確認
警戒レベル1 早期注意情報	最新情報に注意

※地震・津波の場合、警戒レベルは出されません（洪水・土砂災害のみ）

- **避難とは「難」を「避」**けること、安全を確保することです。安全な場所にいる人は避難する必要はありません。
- **車で避難する場合は、渋滞を避けるため、警戒レベル4を待たずに早めに避難**
- **警戒レベル5**でまだ避難できていない場合は、自宅の安全な部屋に移動するなど**命を守る最善の行動**をとる。
- **豪雨時の屋外避難**は危険です。車での移動も控える。

避難する時にも感染症対策の観点を

避難時には、一人ひとりの自覚と思いやりの行動で大切な命を守りましょう。

平時に備えておくこと

- ハザードマップで住んでいる地域を確認し、災害ごとのリスクを把握する
- 災害の種別に応じた避難場所や避難経路、避難方法を確認する
(避難所だけでなく、親戚・知人宅、自宅での避難が可能か検討する)
- 各家庭で非常持ち出し品を確認し、準備する
- 各自で確認した内容を地域の防災訓練などで実践する

避難行動のポイント

- 正確な情報収集と早めの避難
- 動きやすい服装と複数人での避難行動
- 避難者どうしの配慮、自力で避難することが困難な方への協力

避難するときの持ち物(例)

- リュックに入れるなど、すぐに持ち出せるようにしておく
 - マスク □消毒液(せっけん)、ウェットティッシュ、体温計
 - 上履き(スリッパ) □ゴミ袋
 - 水、食料、薬、生活用品 □衣類、おむつ
 - 携帯電話、モバイルバッテリー □懐中電灯、携帯ラジオ、電池
 - 身分証明書、お金、通帳、印鑑 など

避難所滞在中に気をつけること

- 感染症の症状などがある人※は、受付時に避難所の運営者に申し出る
※ 発熱、せきなどの症状がある人、感染の可能性がある人(濃厚接触者など)
- 互いに一定の距離を保つ
- こまめな手洗い、せきエチケットを心掛ける
- 避難者同士で協力し合い、窓を開けるなど換気をする
- 定期的な体温測定や体調確認を行い、不調があればすぐに申し出る

■ もっと詳しく知りたい人は

避難情報のポイントや適切な避難行動、避難所での感染症対策などについて、市ホームページに掲載しています。

▶市ホームページから

避難 コロナ対策

検索

スマートフォンはこちらから▶

